



地域組織の確立で  
会員間の絆の促進を

### シニアクラブ第3回幹事会を開催

## 活動方針など定期総会議案を確認

### 西日本豪雨災害の救援カンパを実施

JAMシニアクラブは、7月17日、JAM本部で三役会議と第3回幹事会を開催し、7月までの活動報告及び9月5日の定期総会に提案する2019年度活動方針案、予算案、田中ひさや政策実現活動の推進について協議・確認した。また、残念ながらJAM組合員2名が犠牲となった7月上旬の「西日本豪雨災害」に対する救援カンパを現役と連携しながら実施することを確認した。

幹事会は、豊泉副会長の開催挨拶で始まり、大山会長が座長として議事を進行した。

見を聞く機会すらつくらず、カジノ法案を優先的に審議している」と安倍政権の国会運営のひどさを指摘。そのうえで「カジノ法案は反社会的勢力が日本中に蔓延させようと手ぐすねを引いて待っている」とも述べた。

の医療費は絶対額で現役の5倍かかっている。これでは医者にかかれなくなる」と反対の意向を示した。

補予定者の所属を「国民民主党とすることで大会議案を準備している」とし、「日常的な連携 中小政策を受け入れられることが党との間で明確になった」と、金属労協(JCM)と一体となって取り組んでいけることで判断した」と政党問題への考え方を明確にした。

座長就任の冒頭、大山会長は、退職者連合定期総会に出席した野党党首の挨拶を引用し、

出荷等の不祥事、信頼を根底から覆す安全神話の崩壊等々、官民挙げてネジの緩んだ日本列島。安らかな人生の終焉を迎えようとしている年寄りを狙った詐欺の頻発、

報告事項では会員登録数が前年比147人減少した7638人で減少に歯止めがかかっていない。政策制度学習会補助金は京都・岐阜・愛知・九州山口・神奈川・埼玉の6地方に給付。シニア共済は加入者が562人増え

## 日本が危ない！

### 切に考えさせられる昨今

山形シニア事務局長 工藤 章博

65歳になって現役引退から2年半経つた。現役時代は微力ながら、会社の為、学校の為、地域の為に尽力したつもりだったので、退職後は家族と自分の為にだけに生きて、悔いのない充実した人生にしようと思っ

た時代には命を落とすことも無かった筈の犯罪の数々。果たして保身だけに走ることなく、国民に支持される清貧の政治家、世直し大明神はいつ現れるのか？望むべきこともないことなのか？組織内候補

2392口増加、給付額は1157件・2億136万8500円と2億円を超えた。また、活動方針と政策実現活動の推進ではこれまで議論に基づいた加筆・修正を確認し、新たに憲法9条の改悪に反対する具体的な行動の提起を退職者連合に要請すること、政策実現の応援者カードはシニアが記入し易いように工夫することとした。

### 主張



それにしても、い。百歩譲って自然災害は不可抗力と一体日本はどうしても、どう見ても人災である災害、うなってしまう政治家や官僚トップによる茶番劇や不正を不正と思わない開き直り、一流企業による検査データの改ざんや無検査

も大事だが、何でも人に頼って人任せにせず、自分の生命、財産、安全は自分で守るということを、真剣に考えるべき時が来ているのではないだろうか。切に考えさせられる昨今である。

と、切に考えさせられる昨今である。

# 卓 第11回グランドゴルフ大会を開催

## 岐 風と緑芝生に癒され汗を流す

傍島 征夫 通信員



岐阜シニアクラブは、恒例によるグラウンドゴルフ大会を6月7日(木)関ヶ原グラウンドゴルフ会場で開催し、昨年より多い37人が参加した。会長挨拶、岩田幹事のルール説明後スタートした。

今回の参加者は経験者が多く、自前のクラブやボールを持って来られ、競技への生き込みが昨年度とは違った会になる感じを受けた。前日まで雨が降りコーラス状況の心配がされたが、当日は天候も良く、ひんやりとした風に吹かれ、敷き詰めた緑の芝生に癒されながら汗

を流した。

競技が始まると真剣な眼差しでホールポストに向けボールを打ち、2打目で早くも入り、ガッツポーズを見せるボールが飛びペナルティーとしてしまい苦笑いをする方など様々、和気藹々とリラックスしながら笑顔を振りまき楽しんでおられるのが印象的であった。公私ともご多忙の中、野

村美穂真議会議員、他

2名も参加し、大会を盛り上げていただいた。成績発表を行い、初優勝の神鋼造機OB・吉川芳雄様、準優勝ナブテスコ垂井OB吉田勝様、3位太平洋工業OB西村一二三様が入賞され大歓声が湧いた。久しぶりに仲間と会うことができたせいかお互いの近況話を話題に会員の親睦と交流を図ることが出来た。

# 玉 高齢化時代、他人事ではない

## 埼 正し対応策を知っておこう

林 久詔 通信員

埼玉シニアクラブは初めての政策制度学習会として、6月12日、

介護研修会を開催した。講師にはNPO法人暮らしネット、えんの小島美里代表

理事をお迎えした。障害者、痴呆高齢者、一人暮らし高齢者施設の運営や訪問支援を実践する経験を踏まえた話で「介護は全ての人が必ず関わることである」と提

起された。



家族が介護制度や施設の知識を持つこと、そのためには常に関心を持つこと。家族だけで抱え込まず家族だけで絶対には解決できない問題であることを知ってほしい。そして早めの対応が必要で

あること、事前手続きと入居することに時間差があつてよい。地域の包括支援センターに行ってみてください。どんなことができるのか、どんな制度があるのか、家族、夫婦で情報を共有してほしい。介護制度の利用も多種あり必要になってからでは正しい判断や選択する時間がなく、即対応することが優先して

もつとよく調べればよかつた、後悔するケースが多々ある。経験者や地域の方から施設等の正しい情報を得ておくことが後悔のない対応をする一番の方法で

情報が入ってきます。以上、心構えや制度について教えられた。最後に介護保険が危ない、改善する必要があることを知ってください、そして声を上げてほしいと労働組合関係者に対する要請がされた。当日はシニア役員と会員、JAM北関東専従職員で22名が参加。1時間半の研修会終了後、講師を交え意見交換をしつつ食事を行了い終了。会員の皆さん是非介護問題に早くから関心を持ってください。関心を持つことで情報が入ってきます。

# 山 陰 瀬戸内の景勝と名刹をバスツアー

## 御祈祷と名物の大茶盛に満足

遠藤 渡 通信員



顔の2倍はある茶碗で飲む抹茶の味は？

山陰シニアクラブは、恒例の日帰りバスツアーを5月27日(日)に行った。

岡山県倉敷市の児島半島にあり瀬戸内海を臨む下津井、本州と四国を結ぶ瀬戸大橋を一

望める鷲羽山、厄除けの蓮台寺を巡るツアーである。

数力所の乗車地を経由しながら、JR松江駅前で参加者が全員揃い、内田会長の挨拶でバスは片道3時間の旅に向かった。今回のツアーは24名の参加で3名が新会員である。

下津井は江戸時代に瀬戸内航路の商港として栄え、その町並みが残り、漁業も盛んで昼食は下津井名物「たこ料理」を堪能した。

蓮台寺は奈良時代に阿弥陀如来、薬師如来の二尊を祀って開山され、江戸時代には備前藩主の信仰篤く、藩主自ら参拝されたといふ、藩主宿泊の建物が重要文化財の「蓮台寺客殿」として、建物もとても襖絵、壁画など多くの文化財がある。中でも円山応挙の「竹鶏の図」は応挙最後の筆といわれている。

ツアー参加者一同は御祈祷のあと、名物の大茶盛(写真)、直径が顔の2倍はある茶碗で抹茶をいただいた後帰路についた。